

GT500 #38「KeePer CERUMO GR Supra」

6年間の苦しみ、第1戦の悔しさを晴らす、
力強い走りで感涙のポールトゥウィン!!

4月の開幕戦決勝レースでは1周目のアクシデントで思わぬかたちでレースを終えてしまったTGR TEAM KeePer CERUMO。チームは懸命の努力でKeePer CERUMO GR Supraの修復を進め、5/3(土)第2戦、富士スピードウェイに臨んだ。

午前9時からドライコンディションで公式練習がスタートした。まず大湯都史樹選手がステアリングを握りコースイン。クラッシュからしっかりと修復されているかの確認も行わなければいけないが、大湯からはこんな無縁が飛んできた。

「クルマ、最高!」

大湯選手は、タイヤの確認などのメニューをこなしていき、石浦宏明選手に交代した。フィーリングはやはり良い。

GT500クラスのQ1で、アタッカーを務めたのは石浦選手。2番手まで0.004秒差という僅差の3番手につけ、しっかりとQ2進出を果たしてみせた。

Q2はQ1のアタッカーを担当した石浦選手からのフィードバックを得てセットアップを修正。大湯選手のために、しっかり

と対応してコースに送り出した。大湯選手は5周目にアタック。1分26秒093を記録。トップに躍り出た。最後まで1分26秒093はタイミングモニターの最上位に残り続け、ついにポールポジションという栄光の場に帰ってきた。

一夜明け、いよいよ決勝日を迎えた。ポールポジションからスタートを切ったKeePer CERUMO GR Supraのステアリングを握ったのは大湯選手。まずはオープニングラップを制し、好ペースで後続とのギャップを広げていく。5周目には早くも2番手の#19 GR Supraに対し3.606秒のリードを広げ、20周目にはその差を12.661秒まで広げてみせた。

直後、GT300クラス車両のストップにともないフルコースイエローが入るものの、解除後28周にはピットインする車両が出はじめるなか、スタートから1時間を過ぎた40周を終えてまず1回目のピットストップを行った。大湯選手がステアリングを握ったまま、タイヤ交換と給油を実施。アンダーカットを成功させ、2番手に浮上した#8 CIVIC TYPE-R GTに9秒ほどのリードをつけ戦線に復帰すると、変わらず首位のままレー



ス中盤を戦っていった。

大湯選手のペースは衰えず、レースが半分を過ぎると2番手との差は20秒ほどになっていく。リードをいかに広げ、レース終盤にマージンを築き石浦選手に託していくかに大湯選手は集中した。

大湯は残り1時間06分となる72周を終え、ピットに戻り、2回目のピット作業を実施。TGR TEAM KeePer CERUMOのメンバーはマージンを活かしながら、きっちりとタイヤ交換と給油を終え、石浦選手をコースに戻す。石浦選手のペースは落ちることなく、85周を終え、GT500クラスの全車が2回目を終えてみると、なんと大量34秒のリードを築くことになった。

陽が傾くなか、石浦選手は着実なペースで走らせていった。苦しかった6年間、そしてどん底のような第1戦岡山での悔しさを晴らすかのように力強い走り続けていった。そしてついに、2019年第2戦富士以来ちょうど6年ぶりとなる栄光のチェッカーフラッグを受けた。

夕焼けのもと、目に涙を浮かべながらバルクフェルメで喜び合った石浦選手と大湯選手は、立川祐路監督と熱い抱擁をかわした。KeePer CERUMO GR Supraは3時間で116周を走破したが、トップを譲ったのはピットイン後のわずか17周のみ。まさに完勝と呼べるポール・トゥ・ウィンだった。

GT500 #100「STANLEY CIVIC TYPE R-GT」

激しい争いを闘い抜き、3位表彰台を獲得!

予選はQ2進出ならず、決勝は13番手から山本尚貴選手のスタート。早速前方の車両を猛追し、ひとつポジションアップし、38周でピットイン。牧野祐祐選手に交代する。少しずつ順位を上げ、74周に2回目のピット作業を済ませると、ドライバー交代せずコース復帰。怒涛のオーバーテイクをみせ、5番手までポジションアップ。さらに序盤にアンダーカットを成功させ上位にいたものの後半になってペースが上がらない#8をオーバーテイクし4番手に立つ。牧野選手のペースは終盤に入っても衰えず、#12との激しい3番手争いを展開。残り15分ほどとなった106周目、ダンロップコーナーでGT300クラスをかわそうとラインを変えた#12のインに飛び込みオーバーテイクに成功! 残りの周回でもじりじりと#12を引き離して3位でチェッカーフラッグを受けた。



GT300 #61「SUBARU BRZ R&D SPORT」

勝利目前でマシントラブル発生、8位フィニッシュ

予選で2位を獲得、決勝が期待される。ポールポジションの#777が速く、山内英輝選手は引き離されないよう、2位のポジションをキープ。10周をすぎるとトップ2台が後続を引き離す。最初のピットインでタイヤ4本交換と給油のフルサービスを行い復帰。新品タイヤを履いた山内選手は好タイムを連発し、自己ベストも更新する。山内選手はコース上で強豪のGT3勢を抜き去り、55周目にはトップに立つ。トップをキープし69周目にピットイン、最後のスリットを井口卓人選手に託す。#777はタイヤバーストがあり、終盤に給油の必要が残っていたため、井口選手は99周目にトップに立つ。しかしファイナルラップに入った優勝目前、セクター3の最後のコーナー手前で、突如マシンが悲鳴をあげ止まってしまった。



SUPER GT 2025シリーズ スケジュール

	日程	会場
Rd.3	6/27(金)・28(土)	セパン・インターナショナル・サーキット(マレーシア)
Rd.4	8/2(土)・3(日)	富士スピードウェイ(静岡県)
Rd.5	8/23(土)・24(日)	鈴鹿サーキット(三重県)

	日程	会場
Rd.6	9/20(土)・21(日)	スポーツランドSUGO(宮城県)
Rd.7	10/18(土)・19(日)	オートポリス(大分県)
Rd.8	11/1(土)・2(日)	モビリティリゾートもてぎ(栃木県)

広報・メディア情報

●オウンドメディア

【重厚感】新型アウトランダーに
エコダイヤキーパーを施工!

「新型アウトランダー」にエコダイヤキーパーを施工の様子をご覧ください。コーティングを施工することで、ツヤ感が増し、エッジがさらに目立って見えます!どんな仕上がりになるかぜひご覧ください!!

●雑誌

スバルマガジン(5/10号)に掲載されました!



スバルマガジンは最新の新型車から、ドレスアップ&チューニング、モータースポーツ、メンテナンス、ショップのノウハウなど情報を余すことなく紹介しているSUBARUオーナーのための専門誌です。今回は、降雪地を走行した車をキレイにする特集で取り上げていただきました!キーパーラボ用賀店にて、「アンダーウォッシュ」「除菌車内清掃」「タッチパネルキーパー」「無塗装樹脂パーツキーパー」を施工。冬に溜まった汚れの解決方法が紹介されています。